

長沼科研公開研究会2021-7-25

本研究の概要と現時点での到達点

持続可能な部活動のあり方に関する総合的な研究

科学研究費助成事業 基盤研究（C）（一般）19K02766

研究代表 長沼 豊

研究の目的

- 本研究は持続可能な部活動のあり方に関する知見を、学校に、地域に、教育行政に、社会に提供することで、現在進行している部活動改革に役立てることを目的とする。

持続可能な部活動とは

- 現在の、問題の多い部活動を持続するということではない
- 「適正化」を目指した部活動改革を行う際、どのような姿を目指していくのか（複数あるだろう）
- 一過性のものではなく継続的に運営可能な姿を考える
- 多くの人々（生徒、保護者、教員、管理職、指導者、地域の人々、教育委員会、国・・）から受け入れられる姿を考える

部活動の持続可能性とは

- 生徒にとっての活動の持続可能性（生涯にわたって取り組むことができるか）
- 教員にとっての持続可能性（無理なく関わることができるか）
- 部そのものの存立の持続可能性（改革・適正化しての継続はできるか）
- 学校にこだわらない活動の持続可能性（地域連携、地域展開で打開できるか）
- 部活動研究の持続可能性（未開の研究内容に取り組むことができるか）

研究の内容と方法

- (1) 今後の部活動改革における部活動の持続可能性の視点を明らかにするとともに、モデルとなる実践を多角的な視点から分析・考察する
- (2) 日本における部活動に関する全ての先行研究を体系的・系統的に整理し、部活動研究の到達点と課題を明らかにする
- (3) この2点を踏まえて、今後の持続可能な部活動のあり方（部活動の目的・内容・方法・形態・実施主体等）を明らかにする

研究の視点

- ① 特別活動の視点
- ② ボランティア学習の視点
- ③ シティズンシップ教育の視点
- ④ 礼法教育・道徳教育の視点
- ⑤ 教育史・学校文化の視点
- ⑥ 運動部活動・スポーツ科学の視点
- ⑦ 文化部活動・若者文化の視点
- ⑧ 働き方改革の視点
- ⑨ 地域部活動の視点

研究内容（1）

- 部活動改革のモデルになると考えられる活動を実施している学校を訪問し（全国17校）、当該部活動に関する観察調査及びインタビュー調査（対象は顧問教諭、校長、生徒）を行い、今後の部活動の持続可能性の視点を明らかにする。調査の対象となるモデル校の抽出は研究協議会において9つの研究分野の視点から吟味して決定する。

持続可能な形のパターン（仮）

- ゆる部活動型（シーズンスポーツ）
- ICT活用型
- 時短活動型
- 働き方改革との連動型
- 地域連携型
- 地域での拠点校方式型（合同部活を含む）
- 地域展開（移行）型

研究内容（２）（３）

- 研究内容（２）部活動に関する先行研究を全て網羅し、その中から今後の部活動改革に資する知見を整理するとともに、これまでの部活動研究を俯瞰し、系統性や関連性を明らかにする。
- 研究内容（３）上記２点の分析・考察を踏まえ、学際的な視点（９つの研究分野の視点）から、持続可能な部活動のあり方を総合的に分析・考察し、明らかにする。

共同研究

- 研究代表者（1名）、研究分担者（5名）、研究協力者（9名）は9つのいずれかの研究視点を分担し研究を進め、リーダーとして研究代表者の長沼豊と、サブリーダーとして研究分担者の林幸克が全体統括（進行管理等）を行っている。15人は日常的に電子メールにて情報共有を行うほか、研究協議会を年3回開催し共同研究を進めている。また、公開研究会を開催し、最終的には報告書にまとめる（今年度末）。

現時点での到達点と本日の報告

- 研究内容（1）17校の調査結果をふまえて分析中
昨年3例を報告、本日は高校への調査を報告（田村）
全体の分析案を報告（林）
- 研究内容（2）約7000件の先行研究を分析中
- 研究内容（3）研究協議を進行中
本日は各視点からの考察のうち2点を報告（清水・佐藤）

今後の研究課題（3年目の後半）

- (1) 訪問調査の成果を分析・考察し、持続可能性の要素を明らかにする ⇒ 今年度の後半で最終の研究協議
- (2) 部活動研究の分析から学术界における到達点、区分等を明らかにする ⇒
- (3) これらをふまえ、今後の部活動の実践及び研究のあり方を考察する ⇒ 9つの研究視点を交わらせて考察

補足

- 研究の枠組みには限界があるため、3年間の研究では部活動改革（部活動の適正化）の全てに役立つ知見は提供できない
- 昨年（2020年）文科省が休日の地域展開を発表したが、本研究に反映させることは困難であった
- 今後の継続的な研究が必要

訪問調査報告

「持続可能な部活動の在り方に関する 総合的な研究」

訪問調査校

群馬県立富岡高等学校 吹奏楽部

2021年7月25日

1 田村 基成

訪問校の状況

群馬県立富岡高等学校吹奏楽部

訪問日 2019年7月27日

全日制普通科

高校3年7学級、

高校2年6学級、

高校1年6学級、

定時制4学級



吹奏楽部の状況

(1) 部員数

40名（3年11名、2年15名、1年14名）、
男子6名、女子34名。

(2) 部活動顧問

2名（主担当の物理教師1名、他1名）

(3) 外部講師

合奏指導者2名、各楽器（複数名）

顧問への調査

吹奏楽部顧問M教諭（理科：物理、吹奏楽部顧問）

（1）練習時間と休養日

- ・文化庁活動ガイドラインに準じた活動
- ・コンクール前等はガイドラインの設定時間を超える場合も稀にあるが、日曜日は必ず休養日としている。

（2）地域からの期待

- ・地域での進学校との期待を受けて、**学習と部活動の両立**を掲げながらも学習に重きを置いている。

顧問への調査

吹奏楽部顧問M教諭（理科：物理、吹奏楽部顧問）

（3）活動費用について

- ・年度当初に**保護者会**を実施し、活動内容・活動計画、徴収する部費について理解を得る機会を設けている。
- ・部費は**月額2000円**であり、集金する部費で楽器別講師謝礼、楽器のメンテナンス、ホールを借りた定期演奏会開催費用など、全てを賄っている。
- ・楽器については個人で所有している生徒が10名ほどいるが、**楽器を購入しなければ活動できないといった状況にはならないように、工夫**をしている。
- ・**OB会**から楽器の貸し出し、費用についての援助を受けている。

顧問への調査

吹奏楽部顧問M教諭（理科：物理、吹奏楽部顧問）

（４）顧問の体制

- ・ 主担当M教諭（物理）、他に1名
- ・ M教諭の役割

演奏指導以外全て

（練習計画策定、講師依頼、会計管理など）

- ・ 自身の演奏経験はある

顧問への調査

吹奏楽部顧問M教諭（理科：物理、吹奏楽部顧問）

（5）指導体制

- ・ **合奏指導講師 2 名**と**楽器別講師**を依頼
- ・ 講師が誰も来校しない活動日は、**学生指揮者**（3年2名、2年3名）が中心となって練習を進行
- ・ 練習計画は学校の予定に沿って顧問が策定しているが、**練習内容については生徒（主に部長）が主体的に決めている。**
- ・ 練習計画や運営全般について、顧問、合奏指導者2名が月1度程度、ミーティングの場を設けている。

生徒への調査

調査協力者

Yさん（高校3年女子、部長、トロンボーン）

Oさん（高校2年男子、学生指揮者、バリトンサククス）

Aさん（高校1年女子、ユーフォニアム）



生徒への調査

(1) 生徒主体の活動について

Yさん：練習計画を学生指揮者と相談しながら決めている。

Oさん：2年生で学生指揮者を務めている。できるだけ思ったことをストレートに表現している。

Aさん：厳しい上下関係はないと感じている。吹奏楽部では学年に関係なく準備や片付けを行っている。

生徒への調査

(2) 周囲からの支援

Yさん：自分達の活動をととても応援してくれることに感謝している。

Oさん：保護者の方の支援がかなり助けになっていて、コンクールの時も楽器の搬入を手伝っていただいてとても助かったと述べている。OBの方々には金銭面についても支援していただいて、それで部活を続けていくことができるので、常にありがたいと思っている。

Aさん：いろいろな場所で演奏すると、たくさんの保護者の方に来てもらい、毎回声をかけてもらえることが自信につながっているので、ありがたいと思っている。

調査の分析

(1) 持続可能な要素

①教師の関わり方

演奏・運営に対しては口を出さず、練習場所と活動費用の確保など、**生徒が主体的に活動できる環境を整えることに専念**している。

②技術指導

合奏指導者2名の他に、各楽器別講師を依頼している。**顧問と合奏指導者は月1度活動全般についてのミーティング**を設けており、密度の濃いコミュニケーションと、良好な関係が築けている。外部講師が技術指導できることにより、**部活動顧問が異動となっても支障なく生徒は活動できるもの**と考えられる。

調査の分析

(1) 持続可能な要素

③保護者との関係、活動費用

年度当初に**保護者会**を開催して、活動内容、活動費用について理解を求めている。コンクール、演奏会の際には保護者は生徒の活動を全面的に支援しており、生徒・保護者・学校の三者が良好な関係を築き、活動を継続できる体制を整えている。また、部費についても**月額2000円**であり、家庭に無理のない範囲で活動費用を賄っている。また、**OB会の支援**による**楽器貸与、金銭援助**も大きく活動を支援している。

調査の分析

(1) 持続可能な要素

④活動時間の工夫

進学校としての地域の期待もあり、**部活動より学業を重視**している。時期によっては練習時間が文化部活動ガイドラインを超える場合もあるが、年間を通じてガイドラインの範囲内で、学業に支障がないよう配慮がされている。

生徒自身が**限られた時間の中で、どのように効果的・効率的に練習ができるか、常に考えながら練習計画**を組んでいる。外部講師も合奏練習時間を遵守している。

調査の分析

(1) 持続可能な要素

⑤生徒主体

部長と学生指揮者が中心となって、生徒自身が限られた練習時間の中で効率的かつ効果的な練習ができるよう、工夫がなされている。顧問不在・異動時にも生徒主体で運営可能。。

⑥コンクール

生徒は良い賞を獲得することより、自分達の演奏を披露することを目的としている。昨年度はB組（小編成30名）出場であったが、生徒と指導者の対話によって、今年度はA組（大編成55名）へ出場した。課題曲、自由曲についても、外部講師の提案に基づき、生徒たちで決めた。

勝利至上主義ではないため、勝つための技術指導ではない。2019年度のコンクール結果は県大会銅賞であった。

調査の分析

(3) 生徒が身に着ける資質・能力、生徒の自己実現

⑦卒業後の継続

インタビューした3名の生徒の進路希望は、大学進学、就職など多様な回答があったが、**いずれの生徒も卒業後も演奏活動を続けたい**との回答が得られた。地域の吹奏楽団において継続したいとのことである。部活動で得たことが、生涯の趣味として継続していくことが期待できる。

卒業後はOBとして、在校生を支援していることが持続可能な要素として大きい。

ご清聴ありがとうございました

訪問校調査結果（全体）

ポイント 1

技術的指導者の確保・配置

地域における技術的指導者の確保と学校への配置

→生徒のニーズに応じた対応が可能

ポイント 2

教育課程との関連の明確化

教育課程との関連の明確化による顧問や保護者の負担軽減

→部活動が教育課程外の活動であることの認識が、
諸側面における過剰負担を回避

ポイント 3

生徒にとっての部活動の最適化

- (1) 活動への継続的な関わりを意識化
- (2) 主体性の尊重
- (3) 部活動指導員による練習（時間）の効率化・広域的展開

スポーツ科学の視点から見た 運動部活動の持続可能性

学習院大学文学部教育学科

佐藤 陽治

スポーツ科学の視点から見た運動部活動の持続可能性

- 発育発達と運動部活動

- 1) 各種、体力及び運動能力の発育発達

- a) 神経系

単スピード・・・幼少期2-6歳（先天的）リズム体操などで種々の動きに対応できる調整力を養う

スポーツに必要なスピード（力×スピード＝パワー）・・・筋力と同時期

スポーツ科学の視点から見た運動部活動の持続可能性

1) 各種、体力及び運動能力の発育発達

b) 筋力 男子13-16歳

女子10-13歳

* (ホルモン分泌の関係でそれ以降でも十分効果が望める)

c) 全身持久性 (スタミナ：最大酸素摂取量) 10歳前後から

男子 11-16歳

女子 11-13歳 (比較的早い)

資料 3

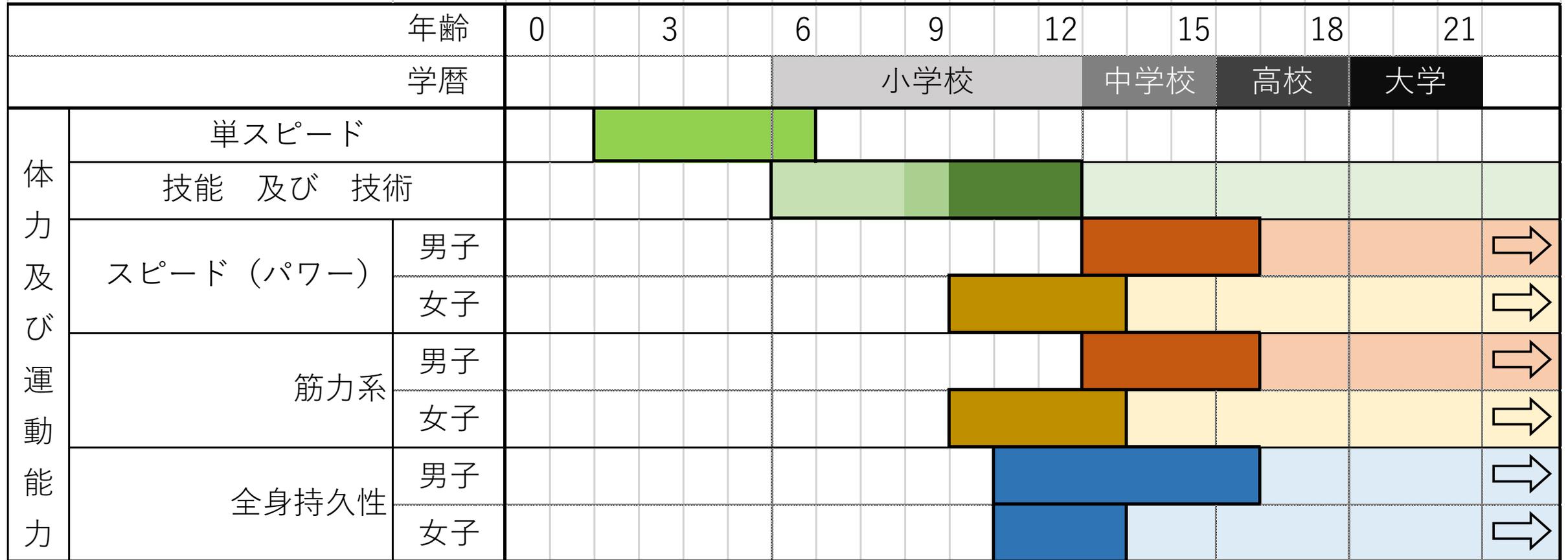


Fig.1 各種体力-運動能力の至適開始時期

資料4 持続可能な運動部活動

地域民間スポーツクラブ		地域民間スポーツクラブ						
		指導者（人材）		施設・用具		運営	財源	
		独自	派遣	独自	提供	独自	独自	補助金
		○	—	△	×	○	○	◎
			↓		↑			
小学校	低学年	×	○	○	○	×	×	×
	高学年	△	○	○	○	×	×	×
中学校		△	○	○	○	△	×	×
高校		△	○	○	○	△	×	×
大学		○	△	○	△	○	○	×

特別活動の視点から見た 部活動の持続可能性

八王子市立浅川小学校長 清水 弘美

部活動の価値



特別活動の見方・考え方

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」

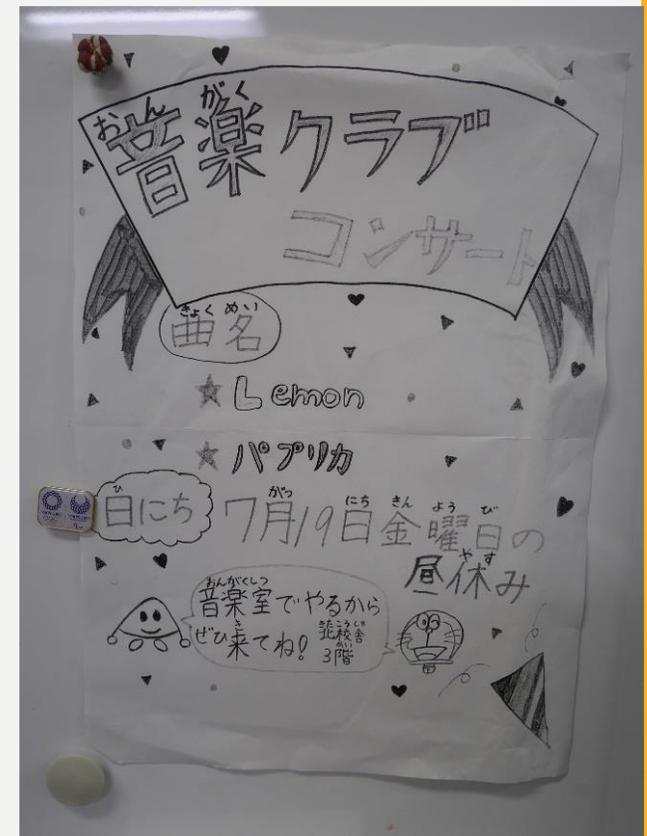
を働かせながら

「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら

課題を解決する」ことを通して、資質・能力（3つの柱）を育むことめざす教育活動である。

クラブ活動の内容

- **異年齢**の子供で協力する活動
- **共通の趣味・関心**を追究する活動
- **自主的・実践的**に運営される活動



クラブ活動は子供中心

- **自分の個性**を生かした活動をつくる
- **自分の好きな事、得意なこと**を楽しむ
- 自分たちで内容や**実践方法を考える**
- 集まった仲間で**役割分担**をしながらつくる



教師の役割



- 子供に**依頼**されれば、アドバイスをする
- 課題に気付かせる声を掛け、**あたかも「自分たちの力で解決できた」**と感じさせる
- 活動を見取り、良いところを見つけて伝える

徹底的に自治的活動を支える

特別活動の指導法

- 子供の願いを実現する
 - 技術の習得を目指さない**選択肢**
 - 技術の習得に指導者を求める**選択肢**
- **なすこと**によって学ぶ
(自治的活動の価値)



クラブ活動を持続可能にする 2つの要素

- **意思決定**

- 子供たちが自発的⇒教師の負担が軽い

- 自分事として選択⇒子供の意欲が持続可能

- **合意形成**

- 合意して取り組む遊びの延長

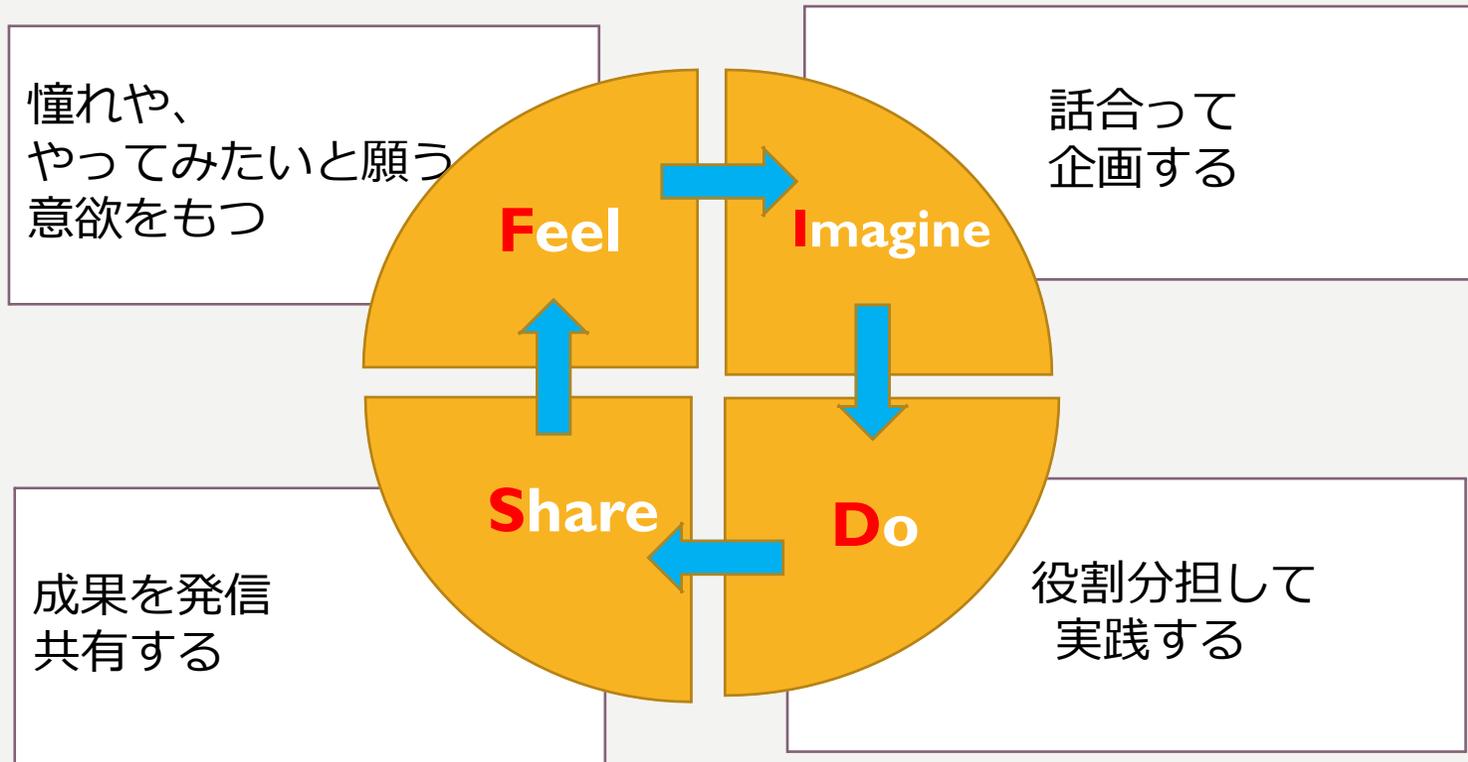
- ⇒楽しさ、満足さにより、意欲を持続可能

クラブ活動を持続可能にするための3つの活動+1

- 0 クラブをやりたいと願う
- 1 クラブを作る活動
- 2 クラブを実施する活動
- 3 クラブの成果発表の活動



持続可能な活動は意欲の継続に 支えられる



FIDS
フィッツズ

FEEL ~ **IMAGINE** ~ **DO** ~ **SHARE**

ご清聴ありがとうございました

